

オートファジー・抗老化研究センター設立記念 キックオフシンポジウム

ヒトはなぜ老いるのか？ 健康長寿の鍵を握るオートファジーとは

2024年4月16日（火）奈良県コンベンションセンター
（開場 9:30） 天平ホール
（奈良県奈良市三条大路1丁目1-691-1）

参加無料

申し込みは
こちらから



定員 300名

【プログラム】 10:00-13:10

10:00-10:10 開会挨拶 細井 裕司（奈良県立医科大学 理事長・学長）

10:10-10:20 来賓挨拶 山下 真（奈良県知事）

10:20-10:30 趣旨説明 中村 修平（オートファジー・抗老化研究センター センター長）
（奈良県立医科大学 生化学講座 教授）

「オートファジー・抗老化研究センターの目指すもの」

10:30-11:10 基調講演 大隅 良典（2016年ノーベル生理学・医学賞）
（東京工業大学 細胞制御工学研究センター 名誉教授）

「35年に亘るオートファジー研究を振り返って」

11:10-11:40 特別講演1 吉森 保（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
総合ヘルスプロモーション科学講座 特任教授）

「哺乳類オートファジー研究：黎明から飛翔へ」

11:50-12:00 応援メッセージ 今井 眞一郎（ワシントン大学 医学部
発生生物学部門・医学部門 教授 テオドル&バーサ・ブライアン 卓越教授）

「オートファジー・抗老化研究センター設立に寄せて」

12:00-12:20 特別講演2 中村 修平（オートファジー・抗老化研究センター センター長）
（奈良県立医科大学 生化学講座 教授）

「オートファジーによる寿命・老化の制御」

12:20-12:40 特別講演3 杉江 和馬（オートファジー・抗老化研究センター 副センター長）
（奈良県立医科大学 脳神経内科学講座 教授）

「オートファジーと神経筋疾患：臨床応用の可能性」

12:40-13:00 全体質疑

13:00-13:10 閉会挨拶 嶋 緑倫（奈良県立医科大学 副学長 / 医学部長）



【主催】



公立大学法人

奈良県立医科大学

奈良県立医科大学 研究推進課

〒643-8521 奈良県橿原市四条町 840 番地

TEL:0744-29-8853

【後援】

奈良県

【協力】



一般社団法人

MBTコンソーシアム

【オートファジーとは】

オートファジーとは、酵母、植物、ヒトを含む動物など、多くの生物に備わっている、細胞内の分解・リサイクルのシステムです。東京工業大学 大隅良典栄誉教授はこのオートファジーのメカニズムの発見により、2016年のノーベル生理学・医学賞を受賞されました。近年の研究からオートファジーは神経変性疾患、2型糖尿病、腎症、感染症といった多くの重要疾患の抑制、さらには寿命の延伸や老化の抑止にも働くことが分かり、大きな注目を集めています。

【講演者】



大隅 良典

1945年福岡県生まれ。1963年東京大学に進学し同大学院にて理学博士を取得。

1974年米国のロックフェラー大学、1977年東京大学、1996年基礎生物学研究所を経て2009年より東京工業大学（現職）。

オートファジーに関するメカニズム解明への寄与で、**2016年にノーベル生理学・医学賞を単独受賞**。

現在も同研究を継続するとともに、2017年に大隅基礎科学創成財団を設立し理事長として、基礎科学の発展に努めている。



吉森 保

1958年大阪府生まれ。1981年大阪大学に進学し、同大学院にて医学博士を取得。1993年ヨーロッパ分子生物学研究所、1996年基礎生物学研究所、2002年国立遺伝学研究所、2006年大阪大学微生物病研究所、2010年同大学大学院生命機能研究科・医学系研究科を経て2024年4月より現職。紫綬褒章（2019年）他多数受賞。大隅良典博士の研究室立ち上げに助教授として参加、

以来哺乳類オートファジー分野の初期から今日まで世界をリードしてきた。大学発ベンチャー AutoPhagyGO 創業者、一般社団法人・日本オートファジーコンソーシアム代表理事として研究成果の産業活用にも尽力している。

以来哺乳類オートファジー分野の初期から今日まで世界をリードしてきた。大学発ベンチャー AutoPhagyGO 創業者、一般社団法人・日本オートファジーコンソーシアム代表理事として研究成果の産業活用にも尽力している。



今井 眞一郎

1964年、東京生まれ。慶應義塾大学医学部在籍中より細胞老化・不死化に関する研究を開始、97年、マサチューセッツ工科大学、01年よりワシントン大学医学部、13年より教授、23年にテオドル&バーサ・ブライアン卓越教授（環境医学）。

専門は、哺乳類の老化・寿命の制御メカニズムの解明及び科学的基盤に基づいた抗老化方法論の確立。特に代謝・老化・寿命の

全身性統括的制御系としての「NAD ワールド」の探究、さらに『プロダティブ・エイジング』を旨とした抗老化方法論の確立

に力を入れている。著書に『開かれたパンドラの箱 老化・寿命研究の最前線』（朝日新聞出版）など。

に力を入れている。著書に『開かれたパンドラの箱 老化・寿命研究の最前線』（朝日新聞出版）など。



中村 修平

1979年、大分県生まれ。2003年、北海道大学理学部生物科学科を卒業。同大学で博士課程を終了後、基礎生物学研究所、Max

Planck Institute for Biology of Ageing を経て、大阪大学大学院医学系研究科の吉森保教授研究室でオートファジーと老化に

ついでの研究を始める。2023年8月より奈良県立医科大学学生化学講座教授に就任。



杉江 和馬

1970年、京都府生まれ。1995年、奈良県立医科大学を卒業。同大学で博士課程を終了後、国立精神・神経医療研究センター、

りんくう総合医療センターを経て、奈良県立医科大学神経内科学で自己食空胞性ミオパチーの研究、難病におけるオートファ

ジー研究に従事。2017年より奈良県立医科大学神経内科学教授。2023年奈良県立医科大学脳卒中センター センター長兼任。

【開催場所】

